# 畜連だより

## 第3回岡山県枝肉共進会迫る!!

今年も恒例に従って本県肉商取引きの改善と肉畜生産技術の向上を図る目的で、下記要領で実施されることになったので、多数の参観をいただきますようお知らせします。

記

1、名称　第３回岡山県枝肉共進会

2、会期　昭和39年12月18日～20日（金、土、日）３日間

3、会場　岡山市網の浜　岡山県営食肉市場

5、出品　肉牛50点　肉豚50点（25セット）

## 附　帯　行　事

### 枝肉取引規格普及講習会の開催

今回、日本食肉協会及び県の主催によって、この県枝肉共進会に併せて、枝肉規格、各付講演会を下記の通り開催することになりました。開催の主旨については、将来消費拡大が予想される畜肉の商品的見方、規格について一般に理解せしめ、今後の肉商経営の合理化を図る上から開催されるものであります。関係者多数の聴講を頂きますようご案内いたします。

記

1、日程、場所

第１日　12月18日　弓之町中小企業会館

第２日　12月19日　岡山県営食肉市場（市内網の浜）実習

2、講師　石原盛衛博士　丹羽太左衛門博士

# 11月上、中旬の子牛市況

### 規格、形質のよいものはめす、ぬき共に強気

小規模市場の顧客は依頼少なく、大規模市場には全国各地からの顧客が揃い盛況を極めた。とくに大口購買は岡山県の寒冷地、群馬県庁、群馬県経済連、宮城県経済連であり、東北大学も試験牛12頭を購買された。

**※市況の見通し※**

めす、ぬき共に需要増により強気横バイ。

| 開設月日 | 市場名 | 入場数 | 売買数 | 売買率 | 1頭当りの価格 最高 | 最低 | 平均 | 前期比 | 前年同期比 | 県外移出 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ト | ト | % | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | ト |
| 11. 3 | 長田 | 51 | 47 | 92 | 62,000 | 20,100 | 32,200 | +1,900 | +7,000 | |
| 〃 4 | 新庄 | 218 | 196 | 90 | 100,100 | 16,300 | 37,200 | | +8,700 | 41 |
| 〃 5 | 美甘 | 251 | 211 | 84 | 90,000 | 13,600 | 34,600 | | +4,600 | 86 |
| 〃 6 | 中福田 | 149 | 137 | 91 | 85,000 | 19,000 | 38,000 | +2,300 | +7,300 | 77 |
| 〃 7 | 三谷川 | 145 | 133 | 91 | 80,000 | 18,800 | 40,300 | | +7,200 | 78 |
| 〃 8 | 湯原 | 201 | 182 | 90 | 106,500 | 16,100 | 41,400 | +4,400 | +10,300 | 108 |
| 〃 9 | 富原 | 179 | 158 | 88 | 87,100 | 18,100 | 38,100 | | +7,900 | 98 |
| 〃 10 | 月田 | 168 | 152 | 90 | 80,100 | 20,000 | 40,100 | +6,300 | +6,700 | 101 |
| 〃 11 | 久世 | 176 | 159 | 90 | 76,100 | 13,000 | 39,700 | +6,300 | +8,000 | 125 |
| 〃 12 | 落合 | 257 | 249 | 96 | 81,000 | 22,000 | 40,100 | +3,900 | +6,800 | 174 |
| 〃 13～15 | 津山 | 875 | 838 | 94 | 125,000 | 10,800 | 40,200 | −2,300 | +8,000 | 615 |
| 〃 16 | 勝間田 | 68 | 59 | 86 | 66,900 | 20,000 | 35,800 | | +6,300 | 13 |

岡山畜産便り 1964.12

## 今こそ和牛生産増強に農家も指導者も力を入れるときだ

# 商品価値の高い子牛をつくることから
# 子牛の生産、育成方法肉用牛中心に

これからの和牛飼育方法についても、時代に即応する肉利用に適する育成方法を考えるべきです。

■　哺乳期間を少なくとも６ヵ月、できれば８ヵ月程度に延長すること。

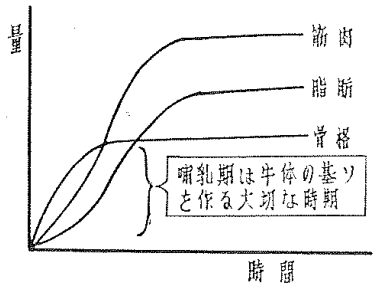
和牛の肉利用を強く要求すればする程、子牛時代の発育をよくする必要がある。この期間の発育の良否は離乳後の発育増体に極めて大きい関係を持っている。

■　子牛の別飼、放牧時の捕食法は絶対必要。普通子牛は生後２～３ヵ月頃から母乳が不足するため、母乳の不足分につき捕食して、子牛の発育を助けるようにすべきです。

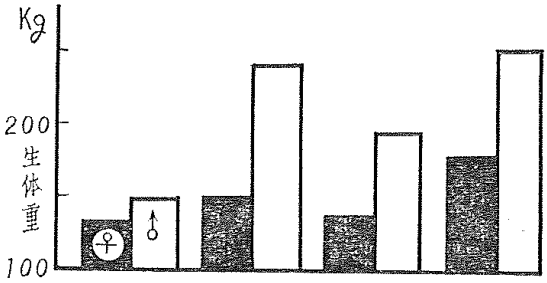
■　去勢は早目に実施する（生後２～３ヵ月）こと。肉利用中心に割切って考えれば、去勢をして商品価値を高めるべきです。それには、哺乳中早目に実施することがよい。生後５ヶ月以上になって実施すると角も太くなり、効果が少ない。ただし、子牛の飼養管理は当然、改善して頂かなければ去勢の効果が半減される。

■　子牛に与える濃厚飼料は単味では、効果が少ない。哺乳期間中の子牛は、飼料の利用性が素晴しく、少しの飼育改善により、目覚しい経済的効果をあがります。

子牛の発育（骨，肉，脂肪）曲線




飼料配合の重要性




| | | | |
|---|---|---|---|
| 米糠 80 | 糠 50 | 大豆粕 50 | 大豆粕 30 |
| 大麦 10 | 大麦 20 | 米糠 50 | 米　糠 30 |
| 麩 10 | 麩 30 | | 大麦 20 |

資料：羽部氏「日本畜連学会報第10巻」麩 20

同じ飼料の量を与えても，生体重は２～３倍の格差が生じる

- 濃厚飼料は少なくとも３種類以上。
- 粗飼料は２種類以上配合すること。